



上田道と川の駅 おとぎの里 地域に伝わるおとぎ話



「唐猫伝説」

むかしむかし、ここは大きな湖でした。湖の周りには肥沃な農地が広がっていました。そこに食べ物を巻き上げては村人を困らせる大きなネズミがあらわれました。

そのネズミを退治しようと、西の村から大きなネコが駆り出されました。ネコがネズミを追いかけて、とっくみあいの末、ついにネズミは逃げ場を失い、大きな湖をせき止めていた岩を食い破りました。

すると岩が崩れ、湖の水は千曲川となって流れ出し、二匹は流れにのみ込まれてしまいました…

その時に出来たのが、ここ上田道と川の駅の象徴である“岩鼻”だと云われています。



「小泉小太郎伝説」

むかしむかしのことです。竜の子供で人間に育てられた小太郎は、本当の母親を探す旅に出た。旅の途中、水不足で作物が育たない百姓たちの苦勞を知る。竜の母親と出会い、育ててもらったことや水不足に苦しむ人のためにと、母親の背に乗り、山を崩し、ついに大沼の水を流して大河をつくった。それが千曲川だと云われています。

また、小太郎が生まれた川が、ここ上田道と川の駅上流の産川だと云われています。

「地藏尊の足跡」

岩鼻の岩壁には、まるで草鞋で歩いたような無数の斑点が見られます。これはお地藏様が歩いた足跡だと云われています。